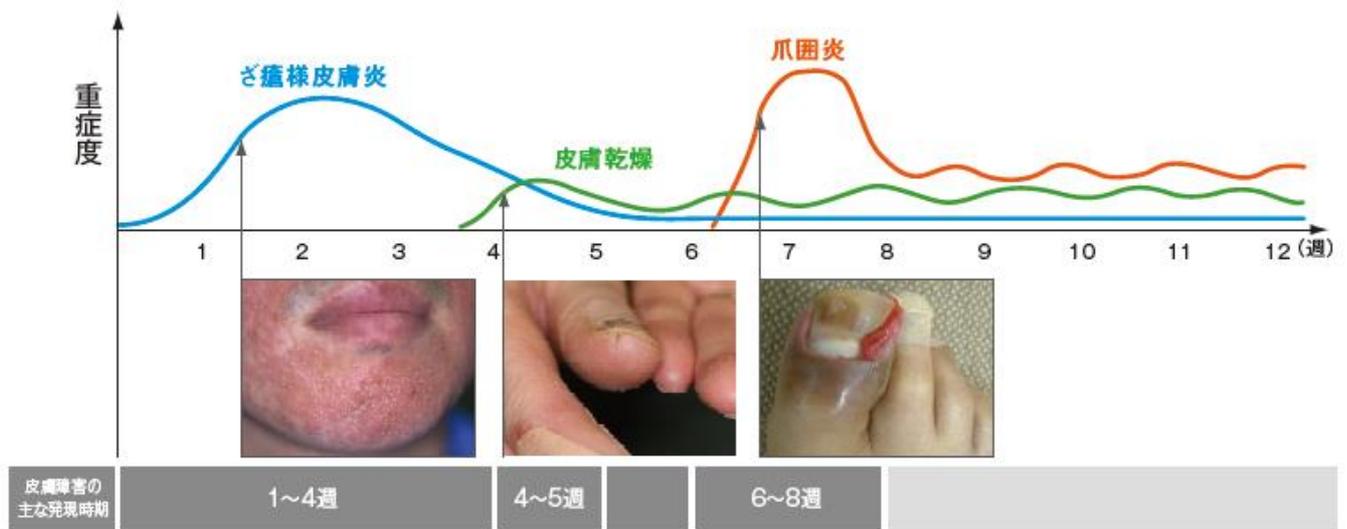


バクティビックス/アービタックスの皮膚症状に使うお薬について

バクティビックス/アービタックスを使用すると高い頻度で皮疹など皮膚症状があらわれてきます。その症状と発現時期，部位によって使用されるお薬が変わります。実際の使用方法について説明します。

●発現時期と症状



- 投与日～投与 1 週間以降：皮膚が赤くなったり，皮疹が出始める
- 投与後 3～5 週間以降：皮膚が乾燥し始める，皮膚に亀裂が生じる
- 投与後 4～8 週間以降：爪の周りに炎症がおこる

●お薬の使い方について

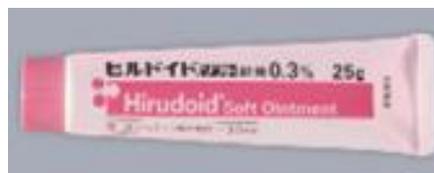
※ジェネリック薬品への変更も可能

点滴当日から使用するお薬

① ヒルドイドソフト（一般名：ヘパリン類似物質）

1日2～3回 皮膚が乾燥した部位に塗布。特に顔、首、胸、太もも

皮膚の保湿を目的として使用します。
点滴当日から使用をはじめましょう。
乾燥している部分に塗ってください。



② ミノサイクリン錠 1日2回 朝・夕食後に内服

皮疹症状の軽減や爪の周りの炎症症状緩和のために処方されます。
点滴当日から内服を開始して下さい。



症状がわずかでも出たら使用するお薬

③ ステロイド外用剤 1日2~3回 皮疹が生じた部位に塗布

炎症を抑える外用薬です。皮膚が赤くなったり、皮疹が出始めたときから使いはじめます。なるべく皮疹部のみに薄く塗るようにしてください。

※ヒルドイドと一緒に使う場合は「ヒルドイド⇒ステロイド外用剤」の順番で塗ってください。

●薬は皮疹が生じた部位によって塗り分けます

顔にはロコイド軟膏

頭にはリドメックスローション

それ以外にはワソカレブソ酸メタリソ軟膏

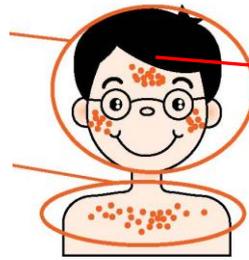
と塗り分けてください

皮疹は主に顔、首、胸、太ももに生じることが多いといわれています

顔：ロコイド軟膏（ヒドロコルチゾン）



体：ワソカレブソ酸メタリソ軟膏



頭：リドメックスローション

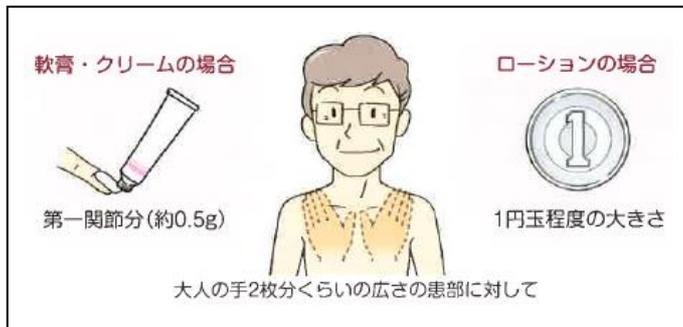
グリボゾル吉草酸エステル酢酸

エステル



●ステロイド外用薬、保湿クリームの必要量の目安

軟膏、クリームは人差し指の先から第一関節までの量、ローションは1円玉大が約0.5gとなり、これが必要量の目安です。この量は成人の手のひら2枚分に対しての必要量です。



部位	部位ごとの使用量の目安	
	軟膏・クリーム	ローション
顔と首	× 2.5本分	× 2.5枚分
体(前)(後ろ)	× 7本分	× 7枚分
腕	× 3本分	× 3枚分
手	× 1本分	× 1枚分
下肢	× 6本分	× 6枚分
足	× 2本分	× 2枚分

◎日常生活における注意点について

- **皮膚のケア**: 低刺激性で香料、保存料を含有しない石鹸を使用する

シャワーはぬるめのお湯を使用し、入浴後に保湿クリームを乾燥部位に使用する

- **爪のケア**を行きましょう

- **日焼け**を避けましょう

副作用が現れたとき(いつもと違うと感じたとき)には我慢することなく

医師・薬剤師・看護師にお知らせください。